

No.17 片目づかい

万事、物もちのいい治郎兵衛さん。物を無駄には使わない。あるとき、治郎兵衛さんは考えた。

「目は二つもあって、どちらで見ても同じものが見えるというのに、毎日二つ出して使うのはもったいない。一つはしまっておいて、片方が壊れてきたら、それを使うようにして、それまで休ませておいたらきっと長持ちするだろう」

こう考えた治郎兵衛さんは、左目に眼帯をかけてしまっておき、何時もは右目をつかって見ていた。数年すると、案の定、右目が疲れてきて、よく見えなくなってきた。

そこで、左目の眼帯をはずして、これを右目にかけて、左目を使うようにした。十分に休息していた左目は調子がよく、実によく見えるので治郎兵衛さんは喜んだ。

ところが、家族はおろか会う人会う人、名前がわからない。眼帯をしていた間に左目は人の名前をみんな忘れてしまったのである。

